

大曲南中生 菓子開発、A I Uで販売 **「物売る大変さ実感」**

大仙市藤木の大曲南中学校の3年生14人が8日、秋田市の国際教養大（A I U）で開かれた「A I Uマルシェ」に出店し、本年度開発したきんつばとカップケーキ、団子を販売した。菓子は、大仙市を中心とした県内産の食材を使っていることが特徴で、持続可能な開発目標（S D G s）に関する学習の一環。



販売したのは、きんつば5種類、カップケーキと団子各6種類。生徒たちは「きんつばいかがですか」「甘くておいしいですよ」などと呼びかけたり、試食を勧めたりして元気良く接客した。来場者は「お薦めはどれですか」「皆さんは中学生ですか」と尋ね、菓子を買い求めた。

大曲南中生は例年、教養大を訪問して留学生と交流していたが、本年度は新たな試みとしてA I Uマルシェで販売する商品を開発することにした。

マルシェの主催団体に所属する学生にコーディネートしてもらいながら、教養大に出向いて留学生にどんな商品なら買いたいかをリサーチするなどし、グループごとに菓子を開発。大仙市などで取れたクリやニンジン、エダマメを使い、学校近くの菓子店「新栄堂小田島」と「おおくぼ菓子店」の協力を得て製造した。

団子を販売した伊藤沙紀さんは「味と見た目にこだわったので、お客さんが手に取ってくれてうれしかった。物を開発して売ることの大変さを感じた。自分たちで考えて商品化を実現した経験を今後に活かしたい」と話した。（佐藤将弥）

（令和6年12月10日（火）秋田魁新聞より一部抜粋）